

一般社団法人日本顧問介護士協会

石間洋美

理事長



054-625-5212

komonkaigo.jp

静岡県静岡市清水区辻三丁目1番2号

ビジョン

介護の不安を「安心」へ！
突然の介護で何をすべきか迷った時、仕事との両立に悩んだ時、一人で抱え込まずに済むよう、いつでも、どこでも頼れる存在であり続けます。

「親の介護で仕事を辞めない社会をつくりたい」——そんな思いから活動続ける、一般社団法人日本顧問介護士協会の石間洋美理事長。

本インタビューでは、介護離職が生まれる背景や、親の介護にかかる費用の実情、そして企業や地域が果たすべき役割についてお話を伺いました。

介護と仕事の両立に悩む方、介護離職防止に取り組む企業関係者にとって必読の内容です。

「ありがとう」から始まった物語——親の介護を支えたい想いと転機

石間さんは20年以上、介護の分野でキャリアを積んでこられたとのことですが、そもそも介護の道に進まれたきっかけは何だったのでしょうか？

もともとは保育士になりたかったんです。高校も保育コースがある学校を選びました。ですが、高校でのボランティア活動が大きな転機になりました。

ボランティアで介護施設を訪れたとき、ご高齢の方々の身体が病気や加齢で変化している姿を目の当たりにして、大きな衝撃を受けました。それと同時に、私のような学生が施設に行った

だけで、あるおばあちゃんが「来てくれてありがとう」と涙を流して喜んでくださったんです。その時、「自分がいるだけで、こんなに感謝されることがあるんだ」と、自分の存在価値を強く感じました。この経験から、人の役に立てるこの世界で専門性を高めたいと思うようになり、介護福祉の専門学校へ進むことを決めました。



専門学校での2年間はいかがでしたか？

実習などを通じて、ボランティアで見ていた世界とは違う、介護現場の厳しさや過酷さを学びました。知識や技術を学んでも、現場ではなかなか通用しないことも多く、理想と現実のギャップを感じながら試行錯誤する毎日でしたね。

卒業後は、介護老人保健施設（老健）で6年間、現場の介護福祉士として勤務されたそうですね。そこではどのような経験をされましたか？

老健は、亡くなるまで過ごす「看取り」の場と、リハビリを経て自宅へ戻るための「回復」の場という、両方の側面を持っています。そのため、回復して元気に退所される方の喜びにも立ち会いましたし、多くの方の最期にも向き合ってきました。その中で「本当にこの方の人生にとって、ここで最期を迎えることが最善だったのだろうか」と、深く死生観について考えさせられる日々でした。

現場で最も大きな学びとなったことは何でしょうか？
人間の身体の繊細さと、生きる気力の大切さです。例えば、ご高齢の方は高熱を出して3日間寝たきりになるだけで、それまで歩いていた方が歩けなくなってしまうことがあります。一方で、ほとんど寝たきりだった方が、懸命なりハビリと周囲の関わりによって、再び自分の足で歩けるようになったり、スプーンでご飯を食べられるようになったりするんです。そういった「生きる力」が湧き上がってくる瞬間に何度も立ち会い、人の可能性や関わり方の大切さを学びました。「もう年だから」と諦めないこと、そして周囲が諦めずに支え続けることの重要性を痛感しましたね。



親の介護で退職はもう古い？介護離職を防ぐためにできること

現場経験を経て、マネジメント職に転身されています。どのようなお仕事だったのですか？

介護施設の生活相談員や施設長として働きました。ご家族様への施設の案内や入退所の手続き、料金説明、そして介護保険制度に基づく行政への対応など、業務は多岐にわたりました。ここで、介護現場を外から支える仕組みや、介護にいくらかかるかといった経営的な視点を学ぶことができました。

その後、2020年に一般社団法人日本顧問介護士協会を設立されました。協会設立の背景には、どのような想いがあったのでしょうか？

介護保険制度が始まって以来、介護報酬だけで施設を運営していくことが非常に厳しくなっている現実がありました。一方で、企業では従業員の介護離職という深刻な問題もあったんです。この二つの課題を結びつけ、介護の専門知識を活かして企業の福利厚生として「両立支援」を行うことで、保険外の新たな収益モデルを確立できるのではないかと考えたのが始まりです。家族の介護で退職せざるを得ない状況は、企業にとって大きな損失ですし、働く人にとってもキャリアが途絶えてしまう不幸なことだと感じました。その不幸をなくしたいという想いで協会を立ち上げたんです。



協会の大きな目標を教えてください。

究極の目標は「介護離職ゼロの社会」を実現することです。しかし、それは1つの会社、1つの団体だけで成し遂げられるものではありません。企業同士が連携し、さらには地域社会全体で介護者を支える仕組みづくりが必要です。私たちは、その連携のハブとなる存在でありたいと考えています。

協会が掲げる「顧問介護士」とは、どのような役割を担うのでしょうか？

企業の従業員様が仕事と家族の介護を両立できるよう、専門家の立場からサポートする役割です。協会が会社と契約することで、その会社の従業員様は、介護に関するあらゆる相談に個別で、かつ無料で何度でも対応してもらえるように...



続きはQRコードからアクセスしてください → → →